



## 平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月5日

上場取引所 東大

上場会社名 ダイセル化学工業株式会社

コード番号 4202 URL <http://www.daicel.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 札幌 操

問合せ先責任者 (役職名) IR広報グループリーダー (氏名) 畑 理史

TEL 03-6711-8121

四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日 配当支払開始予定日

平成22年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	180,902	25.9	20,851	307.6	19,779	317.7	7,747	263.9
22年3月期第2四半期	143,684	△31.3	5,115	△69.8	4,735	△71.7	2,129	△76.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	21.77	—
22年3月期第2四半期	5.98	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	418,145	229,581	49.2	578.18
22年3月期	428,376	229,004	48.1	579.18

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 205,708百万円 22年3月期 206,136百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	4.00	—	6.00	10.00
23年3月期	—	4.00	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	4.00	8.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

※22年3月期期末配当金の内訳 普通配当4円00銭 記念配当2円00銭

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	357,000	11.5	34,000	63.0	32,000	60.1	17,500	58.1	49.19

(注)当四半期における業績予想の修正有無 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P4.「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注)当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注)「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期2Q 364,942,682株 22年3月期 364,942,682株

② 期末自己株式数 23年3月期2Q 9,156,015株 22年3月期 9,032,862株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期2Q 355,865,685株 22年3月期2Q 355,941,939株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きを実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

連結業績予想は、現時点で入手された情報に基づき判断したものであり、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありうることをご承知おきください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報	
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
3. 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、緩やかな回復基調が続きましたが、回復を支えていた輸出の伸びが鈍化し、円高が進行するなど、予断を許さない状況のうちに推移いたしました。

このような環境の中、当第2四半期連結累計期間の当社グループ売上高は、販売数量の増加により、1,809億2百万円（前年同期比25.9%増）となりました。利益面では、販売数量の増加に伴う設備稼働率の向上なども寄与して、営業利益は208億51百万円（前年同期比307.6%増）、経常利益は197億79百万円（前年同期比317.7%増）、四半期純利益は77億47百万円（前年同期比263.9%増）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

## [セルロース事業部門]

酢酸セルロースは、主に液晶表示向けフィルム用途の需要が好調に推移し、売上高は増加いたしました。

たばこフィルター用トウは、円高の影響を受けましたが、当社姫路製造所網干工場において平成22年1月に製造設備を増設したことが寄与して、売上高は増加いたしました。

当部門の売上高は、403億35百万円（前年同期比8.9%増）、営業利益は、77億7百万円（前年同期比34.1%増）となりました。

## [有機合成事業部門]

主力製品の酢酸は、主要用途である高純度テレフタル酸（PTA）向けを中心に需要が回復し、売上高は増加いたしました。

酢酸誘導体及び各種溶剤類などの汎用品は、国内需要が緩やかな回復基調で推移したことに加え、当社大竹工場のエタノール法酢酸エチル製造設備の本格稼働が寄与して、売上高は増加いたしました。

カプロラクトン誘導体やエポキシ化合物、半導体レジスト材料などの機能品は、電子材料市場の好調の継続や海外需要の回復により、売上高は増加いたしました。

光学異性体分離カラム、医薬中間体などのキラルケミカル（光学活性体）事業は、中国、インド向けのカラム販売が好調を継続し、欧米におけるカラム販売も回復基調で推移したものの、一部製品の需要減少により、売上高は減少いたしました。

当部門の売上高は、409億34百万円（前年同期比19.4%増）、営業利益は、40億20百万円（前年同期比86.7%増）となりました。

## [合成樹脂事業部門]

ポリアセタール樹脂、PBT樹脂、液晶ポリマーなどのエンジニアリングプラスチックは、国内外において主要用途である自動車やOA機器、家電製品などの各分野向けの販売が回復し、売上高は大幅に増加いたしました。

AS・ABS樹脂、エンブラアロイ樹脂を中心とした樹脂コンパウンド事業も、自動車や家電製品等の生産の回復により、売上高は増加いたしました。

シート、成形容器、フィルムなどの樹脂加工事業は、猛暑による一部食品分野の需要低迷が影響し、売上高は減少いたしました。

当部門の売上高は、692億39百万円（前年同期比44.9%増）、営業利益は、86億88百万円（前年同期は営業損失64百万円）となりました。

## [火工品事業部門]

自動車エアバッグ用インフレーター（ガス発生器）及びシートベルト・プリテンショナー用ガス発生器（PGG）は、国内外において自動車の生産が回復基調で推移したことにより、売上高は増加いたしました。

発射薬、ミサイル構成部品、航空機搭乗員緊急脱出装置関連製品などの特機事業は、一部製品の防衛省による調達数量減少により、売上高は減少いたしました。

当部門の売上高は、272億48百万円（前年同期比24.9%増）、営業利益は、34億27百万円（前年同期比227.3%増）となりました。

## [その他部門]

水処理用分離膜モジュールなどのメンブレン事業は、主に下水道分野における官需の減少により、売上高は減少いたしました。

その他、運輸倉庫業などの売上高は増加いたしました。

当部門の売上高は、31億45百万円（前年同期比13.2%増）、営業利益は、7億38百万円（前年同期比296.8%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

総資産は、現金及び預金、たな卸資産は増加しましたが、有形固定資産の減少及び投資有価証券の時価評価の減少などにより、前連結会計年度末に比し102億31百万円減少し4,181億45百万円となりました。

負債は、主に長期借入金の返済により前連結会計年度末に比し108億8百万円減少し、1,885億63百万円となりました。

また純資産は、2,295億81百万円となりました。純資産から少数株主持分を引いた自己資本は、2,057億8百万円となり自己資本比率は49.2%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の増加は263億77百万円（前年同期は、313億75百万円の増加）となりました。資金増加の主な内容は、税金等調整前四半期純利益186億85百万円、減価償却費165億55百万円および仕入債務の増加20億71百万円であり、資金減少の主な内容は、法人税等の支払額67億53百万円およびたな卸資産の増加55億46百万円でありま

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の減少は59億47百万円（前年同期は、117億円の減少）となりました。資金減少の主な内容は、有形固定資産の取得による支出61億48百万円でありま

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の減少は109億51百万円（前年同期は、266億70百万円の減少）となりました。資金増加の主な内容は、長期借入による収入51億94百万円、資金減少の主な内容は、長期借入金の返済による支出120億89百万円でありま

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は387億55百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

今後のわが国経済は、急激な円高に加え、各国の緊急経済対策終了に伴う需要減退が起こるとの予測もあり、不透明で予断を許さない状況が続くと予想されます。

このような状況下、当社グループは、アジアを中心に伸長する需要に対応した拡販、継続的なコストダウンなどに引き続き取り組み、連続増益を目指しております。

当社グループの通期の業績見通しにつきましては、当第2四半期連結累計期間の業績と、円高や先行き不透明な経済情勢を踏まえ、売上高3,570億円、営業利益340億円、経常利益320億円、当期純利益175億円を予想しております。

<平成23年3月期の連結業績予想>

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	350,000	31,000	29,000	16,500	46円36銭
今回発表予想(B)	357,000	34,000	32,000	17,500	49円19銭
増減額(B-A)	7,000	3,000	3,000	1,000	
増減率(%)	2.0	9.7	10.3	6.1	
(ご参考)前期実績	320,243	20,856	19,993	11,069	31円10銭

※上記業績予想数値は、現時点で入手された情報に基づき判断したものであり、実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なることがありうることをご承知おきください。

## 2. その他の情報

### (1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### 1. 簡便な会計処理

##### 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却の額を期間按分して算出する方法によっております。

#### 2. 特有の会計処理

該当事項はありません。

### (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

#### 1. 会計処理基準に関する事項の変更

##### 資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ15百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は、846百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は1,061百万円であります。

#### 2. 表示方法の変更

##### 連結損益計算書関係

前第2四半期連結累計期間において、営業外費用の「その他」に含めていた「為替差損」は、営業外費用の100分の20を超えたため、当第2四半期連結累計期間より区分掲記することになりました。なお、前第2四半期連結累計期間の営業外費用の「その他」に含まれている「為替差損」は245百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	31,037	23,792
受取手形及び売掛金	71,822	73,281
有価証券	8,897	7,126
たな卸資産	67,479	62,614
その他	12,128	13,551
貸倒引当金	△48	△135
流動資産合計	191,318	180,232
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	48,867	50,336
機械装置及び運搬具(純額)	80,168	89,094
土地	26,449	26,423
建設仮勘定	4,669	6,847
その他(純額)	2,597	2,647
有形固定資産合計	162,752	175,350
無形固定資産	3,160	3,771
投資その他の資産		
投資有価証券	47,020	54,154
その他	14,146	15,134
貸倒引当金	△254	△265
投資その他の資産合計	60,912	69,022
固定資産合計	226,826	248,144
資産合計	418,145	428,376
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	43,800	42,453
短期借入金	10,551	11,665
1年内返済予定の長期借入金	18,733	24,282
未払法人税等	2,926	4,990
修繕引当金	1,585	126
その他	14,392	18,648
流動負債合計	91,989	102,166
固定負債		
社債	30,000	30,000
長期借入金	48,199	49,873
退職給付引当金	9,173	9,050
役員退職慰労引当金	45	75
修繕引当金	392	1,043
資産除去債務	1,043	—
その他	7,719	7,161
固定負債合計	96,573	97,205
負債合計	188,563	199,371

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	36,275	36,275
資本剰余金	31,579	31,576
利益剰余金	136,181	130,569
自己株式	△4,178	△4,101
株主資本合計	199,857	194,319
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	12,321	16,903
繰延ヘッジ損益	△237	△170
為替換算調整勘定	△6,232	△4,916
評価・換算差額等合計	5,851	11,816
少数株主持分	23,873	22,868
純資産合計	229,581	229,004
負債純資産合計	418,145	428,376

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
売上高	143,684	180,902
売上原価	115,108	134,817
売上総利益	28,575	46,085
販売費及び一般管理費	23,460	25,233
営業利益	5,115	20,851
営業外収益		
受取利息	92	91
受取配当金	387	451
持分法による投資利益	534	707
その他	765	448
営業外収益合計	1,780	1,699
営業外費用		
支払利息	1,244	937
為替差損	—	1,090
その他	915	743
営業外費用合計	2,160	2,771
経常利益	4,735	19,779
特別利益		
固定資産処分益	2	5
投資有価証券売却益	10	—
関係会社株式売却益	—	382
特別利益合計	12	387
特別損失		
固定資産除却損	637	216
減損損失	—	74
投資有価証券評価損	—	360
和解金	398	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	831
特別損失合計	1,036	1,482
税金等調整前四半期純利益	3,711	18,685
法人税、住民税及び事業税	1,112	3,412
過年度法人税等	—	1,540
法人税等調整額	1,078	3,522
法人税等合計	2,190	8,475
少数株主損益調整前四半期純利益	—	10,209
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△609	2,462
四半期純利益	2,129	7,747

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	3,711	18,685
減価償却費	18,484	16,555
減損損失	—	74
受取利息及び受取配当金	△479	△543
支払利息	1,244	937
持分法による投資損益(△は益)	△534	△707
固定資産除売却損益(△は益)	635	210
売上債権の増減額(△は増加)	△3,213	654
たな卸資産の増減額(△は増加)	10,262	△5,546
仕入債務の増減額(△は減少)	1,421	2,071
その他	65	698
小計	31,597	33,089
利息及び配当金の受取額	697	983
利息の支払額	△1,252	△942
法人税等の支払額	△1,690	△6,753
法人税等の還付額	2,024	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	31,375	26,377
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△10,989	△6,148
有形固定資産の売却による収入	3	7
無形固定資産の取得による支出	△199	△129
投資有価証券の取得による支出	△10	△905
貸付けによる支出	△28	△32
貸付金の回収による収入	523	1,019
その他	△998	242
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,700	△5,947
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△24,296	△537
長期借入れによる収入	15,093	5,194
長期借入金の返済による支出	△15,523	△12,089
自己株式の取得による支出	△14	△83
自己株式の売却による収入	0	9
配当金の支払額	△1,423	△2,135
少数株主への配当金の支払額	△506	△1,310
財務活動によるキャッシュ・フロー	△26,670	△10,951
現金及び現金同等物に係る換算差額	824	△850
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△6,170	8,627
現金及び現金同等物の期首残高	30,507	30,128
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,337	38,755

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	セルローズ事業 (百万円)	有機合成 事業 (百万円)	合成樹脂 事業 (百万円)	火工品事 業 (百万円)	その他事 業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	37,039	34,276	47,777	21,811	2,779	143,684	—	143,684
(2) セグメント間の内部売上高	1,174	4,634	1	—	4,475	10,287	(10,287)	—
計	38,214	38,911	47,779	21,811	7,254	153,972	(10,287)	143,684
営業利益又は 営業損失(△)	5,748	2,153	△64	1,047	186	9,071	(3,956)	5,115

〔所在地別セグメント情報〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	日本 (百万円)	アジア (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社(百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	112,549	21,997	9,137	143,684	—	143,684
(2) セグメント間の内部売上高	13,607	4,875	588	19,070	(19,070)	—
計	126,156	26,872	9,725	162,755	(19,070)	143,684
営業利益又は営業損失(△)	8,070	1,273	△272	9,071	(3,956)	5,115

〔海外売上高〕

前第2四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日）

	アジア	その他	計
I 海外売上高（百万円）	32,249	17,594	49,844
II 連結売上高（百万円）	—	—	143,684
III 連結売上高に占める海外売上高の割合（%）	22.4	12.3	34.7

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品群及び事業展開の方法、並びに技術基盤等共有する経営資源に基づくカンパニー制を採用しており、各カンパニーが国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、カンパニーを基礎とした製品群別セグメントから構成されており、「セルロース事業」、「有機合成事業」、「合成樹脂事業」及び「火工品事業」の4つを報告セグメントとしております。

「セルロース事業」は、セルロースを原料とする酢酸セルロース及びたばこフィルター用トウ等を製造・販売しております。「有機合成事業」は、各種の有機化学品及び光学異性体分離カラム等の関連製品を製造・販売しております。「合成樹脂事業」は、エンジニアリングプラスチックを始めとする各種樹脂素材及び樹脂加工品等を製造・販売しております。「火工品事業」は、火薬工学技術をベースとした自動車用安全部品及び防衛関連製品を製造・販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間（自平成22年4月1日 至平成22年9月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	セルロース事業	有機合成事業	合成樹脂事業	火工品事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	40,335	40,934	69,239	27,248	177,757	3,145	180,902	—	180,902
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,454	7,207	6	—	8,668	5,032	13,701	△13,701	—
計	41,790	48,141	69,245	27,248	186,426	8,178	194,604	△13,701	180,902
セグメント利益	7,707	4,020	8,688	3,427	23,843	738	24,581	△3,729	20,851

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メンブレン事業及び運輸倉庫業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△3,729百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社における基礎研究及び管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。